

同窓会支部から

農学部東京支部・東京ゆりの木会の成り立ちとこれから

東京ゆりの木会 会長 奥 裕之 (工S54)

信州大学農学部東京支部(現東京ゆりの木会)は、1996(平成8)年に設立されました。そのきっかけは、平成3年に農学部同窓会が母体となって創立された(勸信州農林科学振興会の厳しい財政問題に端を発します。これを何とかしたいと、長野県立農林専門学校(農学部の前身)の卒業生である原公人さんと大羽敬さんは、「同窓会をより強化し発展させれば、社会的に貢献している振興会も付带的に充実してくる」と考え、「その実現は、会員の組織化であり、支部づくりである」と東京支部結成に動き出しました。その想いで、まずは農専の支部をつくり、ご自身は大学卒業生は誰も知らない、何もわからないけど、大学の支部を造らなければ想いは叶わない!よし名簿と情報を集めて電話で連絡、発起人を集めよう!と動き出したのでした。

こうした大先輩方のご尽力でスタートした東京支部も、今年6月5日、第27回の総会を開催しました(新型コロナの影響でリアル開催は3年ぶりでした)。現在の幹事は、昭和卒6名、平成卒6名の計12名(うち女性4名)のチームで、年8回程度の幹事会を開



今年度の東京ゆりの木会総会のようす

影響でリアル開催は3年ぶりでした。現在の幹事は、昭和卒6名、平成卒6名の計12名(うち女性4名)のチームで、年8回程度の幹事会を開

山梨支部からのごあいさつ

山梨ゆりの木会 事務局 寺沢 恵治 (工S45)

同窓会会報「ゆりのき通信第38号」の発行誠におめでとうございます。

発行に際し、山梨県支部から一言ご挨拶申し上げます。

当支部は、現在、会員数が百数十人を数える大所帯に発展して参りました。昔は、山梨こまくさ会として活動してきましたが、本部が支部名称を「ゆりの木会」に統一したことを契機に、山梨県においても「山梨ゆりの木会」として活動してきました。

しかし、この活動も、ご多分に漏れず新型コロナウイルス感染拡大に伴い、この2年間余りは休眠状態で推移している

催しています。年1回の総会では、同窓生や農学部の先生の講演を開催。その他に、「ブラゆり」「ブラタモリ」とゆりの木を組み合わせた造語。農学部の先生の企画、案内で、所縁のある街や自然を訪問・散策し、①知見を深め、



2018年「ブラゆり」のようす(新宿御苑にて、亀山章先生と)

②会員相互の親睦・交流を図る)を実施し好評を得てきました。今年も実施予定です(11月開催を目処に現在企画。詳細は東京ゆりの木会ホームページ・Facebookをご確認ください)。

我々母校農学部の置かれている経営環境や、求められる役割等も変わってきています。同窓会設立以来の先輩方の想いを胸に、東京ゆりの木会として、貢献できることを実施していきたいと考えています。その第一歩として、米倉学部長、伊原教授との意見交換を行いました。これからも具体的に何ができるのか意見交換を継続し、学生との交流を進める予定です。

さて、会員数は約1800人いますが、財政的に厳しい為、総会の案内などは郵送からEメールへの転換を進めています。東京周辺以外の同窓生も参加可能です。是非ともメールアドレスの登録をお願いします(QRコードから登録画面に入れます)。また、総会やイベントのご案内は、東京ゆりの木会ホームページとFacebookにも掲載しております。幹事として活動したい同窓生も大歓迎です。楽しい仲間ですので、是非ご連絡ください。



のが現状であります。早く新型コロナウイルスが収束に向かい、日常の生活を取り戻し、同窓会活動も活発に出来るように準備していきたいものです。会員も上は90代の方から、下は、20代と多様性に富んでおりまして、会員の要望を取り入れることはなかなか至難の技と言えます。会員の要望は、何が何でも支部の灯は消さないでくれとか、伊那の信大校舎に家族同伴で訪問したいとか、支部同窓会が主催して県民に農林業の高度技術を啓蒙するシンポをやりたいなどの意見があります。

この要望を真摯に受け止め、会員にメリットがあるよう、活動の輪を広げていきたいものです。

その節は、今まで以上に本部のご支援、ご指導を賜りたくお願い申し上げます。

農学部公式 Facebook ページのご紹介

●農学部 <https://www.facebook.com/shinshuagri>

四季折々のキャンパス写真や、イベント、学生の活動などについて掲載しております。是非ご覧ください。

●演習林 <https://www.facebook.com/shinshuafcforest>

演習林での実習や、日々の管理のようすを掲載しています。フォローやシェア、他の同窓生への紹介をよろしくお願ひします!